



# ゲーム開発の全国大会で優勝

おぐらよしひと たかみりょう  
小椋睦仁さん・高見良さん

皆さんは、ゲームエンジン「Unity」をご存知ですか。ゲームエンジンとは、パソコンでゲームを作るためのソフトで、Unityもその一つです。

9月27日に、Unityを使った高校生以下のゲーム開発大会「Unityインターハイ2015」の発表会が行われ、「怖がり少年」が優勝作品に選ばれました。今回は、その作品を開発した小椋睦仁さんと高見良さんに話を聞いてきました。

## 実力を試したい

小椋さんと高見さんは、東郷高校の2年生で、AVC(Audio Video Create)部に所属しています。AVC部は、パソコンの操作方法を学んだり、学校行事をビデオで撮って編集したりするのが主な活動です。

小学生のころからパソコンを触ることが好きだったという二人。部活動の時間は、ゲーム開発に励んでいます。二人がUnityを勉強し始めたのは、高校に入学してから。「自分たちにどのくらい実力がついたのかを知りたい」という思いから、大会への出場を決めました。

## プロからの評価

大会には全国から120チームが参加。まず作品が審査され、上位15チーム

がプレゼン発表会へ進みます。

「プレゼンは原稿を見ながらやったのに、緊張してたくさんかんでしまいました」人前で話すのが苦手という二人。原稿を見ずにすらすらと話していたチームもいて、焦りを感じたそうです。

しかし、二人は、京都府の東山高校や兵庫県の灘高校などを抑えて優勝。

「自分たちが優勝に選ばれたときは『まさか』という感じでした」

二人の作品は、照明のオンオフを切り替えて、出口をめざす2Dパズルゲーム。主人公は照明の点いているところを歩けますが、照明を多く点けるとプレーヤーが落ちてしまうという設定です。

作品は「味のある2Dグラフィックやサウンド、自然とゲーム内容がわかるように設計されたステージ構成やTips(小技など)、ニヤリとさせられる演出など、総合的に見てもっとも優勝に相応しい作品」という評価を受けました。

## 目標はまだまだ先

二人は大会初出場で優勝という快挙を成し遂げましたが「次は大人も参加する大会で優勝を目指したい」とすでに新たな目標を掲げています。

また、自分の将来について小椋さんは「情報を学べる大学に進学して、ゲーム

左から高見さんと小椋さん



開発会社に就職したい。たくさんのゲームを作って、皆さんに楽しんでもらうのが夢です」と話します。

高見さんも「ものづくりが好きなので、大学は工学部に行きたいです。ゲーム開発は続けますが、大学でさまざまな分野のものづくりを学んで、自分にあった仕事が見つけられたら」と夢を語ります。

## 僕らのゲームで遊んでくれる人へ

二人が開発したゲームは、大会の公式サイトで公開されています。

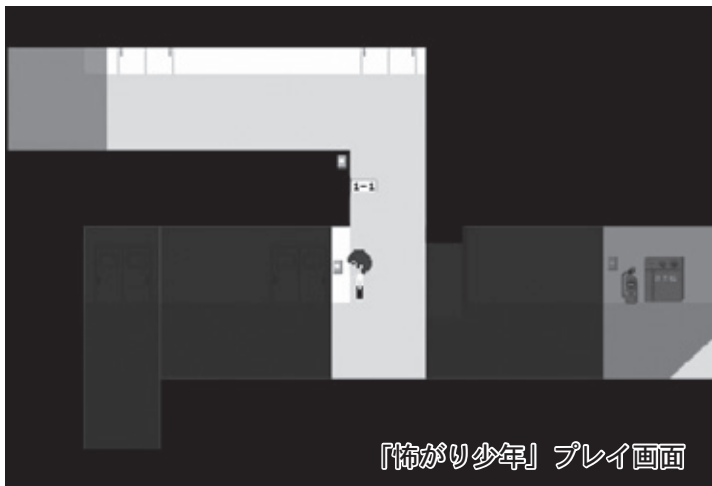
「まだまだ改善すべきところがあります。頑張って作ったので一度遊んでみてください」と高見さん。

小椋さんは「難易度が高いので、最後までたどり着ける人は少ないかもしれませんが、その分攻略する楽しさがあると思います」と話します。

皆さんも二人のゲームで遊ばませんか。

## 大会公式サイト

<http://inter-high.unity3d.jp/>



『怖がり少年』プレイ画面